

NPO法人APLA

2023年度事業報告



ネグロスのバランゴンバナナ生産者を訪問したぼこぼこバナナプロジェクトのメンバー

2023年度を振り返って

2023年度は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミック以降、久しぶりにフィリピン・ネグロスやインドネシア・パプアの民衆交易の産地へのツアーを実施することができ、APLA設立以降、活動の柱として位置付けている「交流」- 人と人が出会い、共に過ごすなかで気づきや学びを分かち合うこと - の力を再確認した年となりました。国内においても、規格外未利用のバランゴンバナナの活用をめざす「ぼこぼこバナナプロジェクト」を中心に、多くの方との出会い、新たな協力関係が生まれていることに大きな希望を感じています。

一方で、イスラエルによるガザの大量破壊・ジェノサイド攻撃であまりに多くの市民の命が奪われ続けている状況、それを止めることのできない国際社会のあり方に、言葉を失いそうになることばかりです。それでも語ることを止めるという選択肢はありません。封鎖下でのジェノサイド、その根底にある76年にわたる占領の問題について、現地パートナーから届く声を日本社会に伝え続けます。パレスチナの人びとが自由と平和を取り戻し、いのちと暮らしが守られる日が一日も早く来ることを願って。

地域づくり事業

フィリピン・ネグロス

■カネシゲファーム・ルーラルキャンパスの土地取得

ネグロス島カネシゲファーム・ルーラルキャンパス（以下KF-RC）の5.4haの土地を、現地農民自身が取得するための行政手続きに1年半以上の歳月がかかりましたが、2023年6月、ようやくすべての手続きが完了し、農園の土地5.4haの権利が正式にKF-RCのものとなりました。支援者の皆さまからのご寄付により、土地の代金および手続きにかかった諸費用を滞りなく支払うことができました。

なお、寄付金の総額8,851,250円から土地取得に必要な費用を差し引いた額につきましては、KF-RC Foundation理事会（注）がスタッフと議論を重ね、1）自立的で継続的な農場運営の基盤づくり、2）地域の小規模農民が契機や経験を得られるような農民学校・交流の場の充実化のために活用させていただくことに決定しました。スタッフたちが中心に策定した短期計画・中長期計画にもとづいて、これまでにトラックの購入、セミナーハウスやキッチン の修繕、電気系統の修繕、直売所のサインボード、苗木の調達などが完了しており、残金は約100万ペソ（約270万円）となっています。

注：2023年3月現在の理事は、ネグロスから5名（養豚家ビビアン・バルガス、ATPFアリエル・ギデス、ATPFダーリーン・エクサルタド、KF-RCスタッフのチータ・タカタおよびジョネル・ベントゥラ）、日本から2名（APLA野川未央、BMW技術協会 秋山澄兄）の合計7名です。



■KF-RCの研修プログラム

2023年5月頃からネグロス島でアフリカ豚熱（ASF）の感染が拡大したため、養豚を経営の基盤としているKF-RCでも、被害を出さないように防疫対策を徹底してきました。

幸いにも11月頃から状況が落ち着いてきたため、KF-RCスタッフたちが研修候補生の暮らす地域を訪問し、本人そして家族へのインタビューを実施し、研修候補生を決定しました。農場内に研修生を受け入れる準備を進めてきて、2024年2月から10期研修生の3名が研修を開始しています。

Jarry、Eryl、Wiljunの3名は、2024年10月までの8カ月間、スタッフたちと一緒に農園で暮らしながら、有畜複合型の循環農業を学んでいきます。



※グリーンコープ共同体「fromネグロス・クリスマスキャンパ」ならびに支援者の皆さんからの寄付金で実施しています。

■新潟食料農業大学研究チームとの協同

新潟食料農業大学（NAFU）の研究チームによる「未利用バナナやバナナの皮のメタン発酵（ガスを取り出して調理などに使う）とその残渣を液肥として活用する実験プロジェクト」が進んでおり、APLAも継続的に協力しています。2023年度は、NAFUの研究チームのネグロス訪問が実現し、オルタートレードフィリピン社（ATPI）やバランゴンバナナ生産者の皆さんに実験について共有することができました。実用化に向けて協同を続けていきます。



東ティモール

■環境保全活動

パートナー団体のPermatilが東ティモールの若者向けに毎年開催しているパーマ・ユース・キャンプですが、東ティモールの若者たちにとって自分たちの地域の環境保全について体験を通して学ぶ貴重な機会となっています。今年はいバウカウ県（7月）、オエクシ・アンベノ特別行政区（8月）で開催されたキャンプに、コーヒー産地のエルメラ県の若者たちが参加できるように支援しました。

今年のキャンプは「私たちは水と大地を守るために働くことができる」がテーマとして掲げられ、若者たちは、有機農業保全・水源保全・テラス式農園（土壌保全）の3つのグループに分かれて、学びました。キャンプの参加者たちは帰宅後に自分の暮らす地域で学んだことを実践することが求められており、APLAが支援したエルメラの若者たちも水源保全やテラス式農園づくりなどに取り組んでいます。



■在来の種子の保全活動

昨年度に引き続き、エルメラの仲間たちと独自の「種子バンク」の設立に向けて試行錯誤中です。日本や海外の事例を紹介し、机上で考えるだけではなく、東ティモールのda TerraというNGOがバウカウ県で運営する種子バンクの視察見学を実施しました。ここでは、種子を保管するだけでなく、苗の状態でも保管し、販売もしています。「種子バンク」という新しいフレーズに囚われすぎず、地域の中で昔やっていたこと/昔からやってきたことなど、身近なものや地続きの先に「種子バンク」の設立を目指していく重要性を実感し、エルメラ県内での在来の種子の種採りと保管を進めています。

また、インドネシア駐在スタッフの松村の友人がインドネシア・西ジャワで運営している種子バンクの見学をさせてもらい、種子の保管方法などについて学び、実践に移す準備も開始しました。

※パルシステム埼玉「平和募金」ならびに支援者の皆さんからの寄付金で実施しています。



インドネシア

■東ジャワのエビ養殖池地域における家庭ごみの回収活動

2021年度に開始したシダルジョ県スタティ郡カラニャル村での家庭ごみの回収プログラムの発展のために、同村で活動を担う住民組織の事務所兼スタッフの休憩スペースの建設を支援しました。事務所のオープンと合わせて、地域住民を集めたごみの分別についてのワークショップを実施し、約20名が参加。地域の環境保全を他人任せにしないための試行錯誤が続いています。

同県ジャボン郡クボグヤン村でも、家庭ごみの回収プログラムが動いていますが、回収・分別後に残った可燃ごみを焼却する施設の需要があり、村が所有する分別場所に焼却炉を建設する支援をしました。また、同村でごみの回収・選別を担当する住民組織メンバーの皆さんが安心して働けるような装備の供与、社会保障への加入の支援も実施しました。

※グリーンコープ共同体「fromネグロス・クリスマスキャンパ」ならびに支援者の皆さんからの寄付金で実施しています。

■南スラウェシのエビ養殖池地域における家庭ごみの回収活動

ピンラン県でも2021年度からランリサン郡ランリサン村で家庭ごみの回収・選別活動を開始しました。ピンラン県ランリサン郡では、2022年12月に同地域を高潮と洪水が襲い大きな被害が出たこともあり、復興が優先事項となっていました。2023年度後半には、新たにランリサン村に可燃ごみの焼却炉が完成しました。また、東ジャワの住民組織が現地を訪問し、これまでの経験を同地域の住民に共有するワークショップを開催し、約20名が家庭から出るごみの分別や地域の環境を守る活動についての学びを深めました。

※りそなアジア・オセアニア財団「環境助成事業」ならびに支援者の皆さんからの寄付金で実施しています。



広報・出版事業

ワークショップ、講座、学習会など

■ワークショップ

対面でのワークショップの開催依頼がコロナ禍前同様の頻度に戻ってきており、事務局スタッフが各地に出張して講師を務めました。ぽこぽこバナナプロジェクトと関連させ、バナナのワークショップも積極的に展開しています。

◎チョコレートワークショップ：13件

（生協、消費生活センター、子ども向け環境講座、映画館）

◎コーヒーワークショップ：1件（生協）

◎バナナワークショップ：12件（ぽこぽこバナナプロジェクト関係、生協）



■オンラインセミナー「パレスチナのオリーブ生産者は今」開催

パレスチナ・ガザ地区の深刻な状況はマスメディアでも報道がある一方で、民衆交易のオリーブオイルの産地であるヨルダン川西岸地区の状況についてはなかなか情報が届いてきません。

オリーブの産地や生産者の現在を伝えるため、2023年12月13日にオンラインで現地とつなぎ、「パレスチナのオリーブ生産者は今」をオルター・トレード・ジャパン（ATJ）と共催しました。パレスチナとの時差（7時間）のため、19時から21時という遅い時間帯での開催にもかかわらず、278名（事前登録者数は400名以上）の方々にご参加いただきました。

セミナーのアーカイブ動画・ダイジェスト動画は、ウェブ（<https://www.apla.jp/archives/8770>）に掲載し、どなたでもご覧いただけるようにしています。



セミナー終了後も、現地から届く最新情報を日本語訳したものをウェブサイトに掲載したり、SNSで発信することで、一人でも多くの方に現状を知ってもらえるように努めています。



■講座・学習会

大学や高校での講義、市民団体主催の講座を通じて、合計10カ所約460人の方に対して、民衆取引の取り組みや背景について伝えることができました。

グリーンコープ共同体による「fromネグロスセミナー」では、16カ所でネグロスと日本の連帯の歴史、その他の民衆取引やアジア地域での取り組みについて、組合員の皆さんにお伝えすることができました。

■NPAとの共同開催講座

2023年3月から5月まで、APLAとNPAの共催講座「村井吉敬の小さな民からの発想」を担当しました。村井吉敬さん（元APLA共同代表）が『小さな民からの発想』を書くに至った背景やその後の足跡を追い、「小さな民」から発想することの意味を全6回にわたって考えました。

公式ウェブサイト: <https://npa-asia.net/>

印刷物の発行

■機関誌『ハリーナ』

年に2回発行。APLAが大切にしたい考え方やアジア各地からの生の情報をお届けします。

51号（2023年8月）

[特集] 在日外国人をめぐる「私たちの課題」

52号（2024年2月）

[特集] パレスチナに連帯を



■『PtoP NEWS』

ATJと協同で隔月発行。民衆取引の商品や生産者のこと、裏話などをお伝えしています。ラインナップは以下の通りです。

vol. 55（4月）もったいない！を楽しい！に～「ぼこぼこバナナプロジェクト」進行中～

vol. 56（6月）ツピへようこそ！～バランゴンバナナ産地研修記～

vol. 57（8月）ラオス・コーヒー生産者との再会

vol. 58（10月）カカオ生産者協同組合が立ち上がりました！

vol. 59（12月）民衆取引パートナー、TOKYOに集結！

vol. 60（2月）パレスチナでオリーブを栽培し続けるということーオリーブオイル民衆取引の意義



*バックナンバー（『ハリーナ』は最新号をのぞく）は、全ページをウェブサイトで公開しています。

<https://www.apla.jp/archives/publications-cat/halina>

<https://www.apla.jp/archives/publications-cat/ptop>

交流事業

■東ティモールとカンボジアの交流

合同会社PLCと協同で、カンボジアと東ティモールの学校菜園の取り組みについての相互の学び合いを継続してきました。助成期間の3年間でコロナ禍と重なってしまったため、関係者が直接行き来する交流は実現できませんでしたが、代わりにお互いの取り組みの動画を制作し、それぞれの地域の学校で先生や生徒たちに視聴してもらうという形を取りました。2024年2月に訪問した東ティモール・エルメラ県の小学校では、近隣地域の大人たちもカンボジアの学校菜園でのハーブティー作りの活動に関心を示していました。

東ティモールの活動についての動画（テトゥン語＋英語字幕）では、APLAが共同してきたエルメラ県内の2つの小学校の様子に加え、学校菜園活動を全国的に牽引しているエゴ・レモスさんや東ティモールの教育省担当者のインタビューなどがまとめられています。動画はYouTubeで視聴が可能です。

https://www.youtube.com/watch?v=VRt-cKvR_wc

※りそなアジア・オセアニア財団「環境助成事業」で実施しました。



■海外ツアー

インドネシア・パプア州を訪問する筑波大学の海外研修の実施に、APLAと現地カカオキタ社で協力しました。参加は、学生7名（1年生～3年生）と教員1名。研修内容は、カカオキタ社でのブリーフィング、カカオ産地ブラップ村滞在（5泊6日）、カカオキタ社のカフェでの職業体験、国境付近の移住村やパームオイル農園の訪問など。海外渡航が初めて、アジアは初めて、という学生も多く、日本とはまったく異なる村での生活に困惑を感じることもあったようですが、カカオ生産者の皆さんがあたたかく迎え入れてくれたおかげで、参加学生の皆さんは、パプアの大ファンになって帰国しました。帰国後は、パプアのカカオを広めるための活動に取り組んでくれる予定です。



■福島・二本松との交流

6月3日の会員総会後に『原発をとめた裁判長 そして原発をとめる農家たち』上映会&トークを開催し、過去にパネルサポーター制度などを通じてAPLAも支援をした二本松のソーラーシェアリング（営農型発電）の取り組みのこれまでと現在、そして今後について、二本松有機農業研究会の大内督さんと近藤恵さんにお話を伺いました。

9月には、NPO法人アユス仏教国際協力ネットワーク、一般社団法人二本松有機農業研究会、そして株式会社Sunshineの共催で、福島県二本松市におけるソーラーシェアリングの見学会と交流会を開催し、小学生を含む11名の参加がありました。

10月には「互恵のためのアジア民衆基金（APF）」の総会開催とあわせた事業視察として、海外からのゲスト3名および日本の生協関係者約10名が二本松の先進的な取り組みを見学する機会をつくることができました。



■福島の子どもたちに届けよう、バナナ募金

2011年3月の福島第一原発の事故後、子どもたちが少しでも安心・安全な食べものが食べられるようにと福島の保育園・幼稚園に農薬を使わずに栽培されている balan-gon banana を定期的にする活動を続けています。13年目の取組みとなる2023年度は、7月にお届け先の園を訪問したうえで、事務局・理事会で議論を重ね、新規の募金受付を12月で終了しました。子どもたちへのバナナのお届けは、2024年いっぱい継続する予定です。

◎発送先：合計16施設（いわき市2、福島市11、郡山市1、南相馬市2）

◎2023年度発送状況：balan-gon banana 1,033kg（541,435円相当）

《保育園・幼稚園からのお礼の絵・お手紙》



■互恵のためのアジア民衆基金（APF）

日本や韓国の市民の寄附で造成した基金から、フィリピン、インドネシア、パレスチナなど、それを必要とする団体や地域社会に低利で融資する仕組み。同時に、アジア各地の民衆の経験や知恵を共有する仕組みとして、相互に助け合い、教え合う役割も果たしています。APLAもメンバー（社員組織）として参加、共同代表の市橋氏が理事を務めており、理事会や総会に出席しています。2023年度の年次総会は、東京での開催となり、総会運営も担いました。

民衆交易事業

■2023年度の売上合計：9,897,061円（予算対比108.5%、前年度対比113.4%）

オンラインショップ：6,391,013円／手わたしバナナくらぶ：1,604,440円／イベント：712,019円
PtoPカフェ車：69,130円／事務所販売：525,447円／その他：595,012円

■オンラインショップ（APLA SHOP）

- 2023年7月より「頒布会」をリニューアルし、コーヒー多めセット、お菓子多めセットの2種類に増やして再開しました。
- 2023年10月7日以降のパレスチナ・ガザ地区へのイスラエルによる侵攻を受け、オンラインショップ上でも寄付（1口500円）ができるような仕組みを作りました。パレスチナへの連帯・応援の気持ちでオーリーブオイルや石けんをご購入くださる方が増え、昨年度に比べて約2.5倍の売り上げがありました。



■イベント、PtoPカフェ車の出店

対面のイベントが復活してきており、つながりがあるイベントに物販やPtoPカフェ車での積極的に出店をし、民衆交易の商品や規格外未利用バランゴンバナナのアピールをすることができました。

【物販出店】アースデイ東京2023（渋谷区）、夢広場（町田市）、パルシステム神奈川ハートカフェ、雑貨市（神奈川県大和市）、いちよう祭り（八王子市）、国際有機農業映画祭2023、CLEANING DAY GREEN SPRINGS with TOKYOエシカルマルシェ（立川市）など



【PtoPカフェ車の出店】清澄白河ピース・マルシェ（江東区）、麦の収穫祭（東久留米市）、新宿SDGsフェス（新宿区）、自由学園バザー（東久留米市）など

■情報発信

- APLA SHOPの登録者向けに隔月でメルマガを配信しています。【登録者：約600人】
- インスタグラムでは、民衆交易の商品情報やイベント情報などを発信しています。【フォロワー：430人】 https://www.instagram.com/apla_ptop/

ぽこぽこバナナプロジェクト

2023年度（2023年4月～2024年3月）は、1年間で**12,840kg**の規格外バランゴンバナナを活用することができました。

毎月平均で10kgの規格外バランゴンバナナ100ケースの注文があったという形です。また、定期購入して下さっているところも8件あります。



【活動実績】

8月20日：

「規格外バラゴンバナナで楽しくおいしくフードロス削減」小学生向けワークショップを開催。明海学童クラブ（千葉県浦安市）の子どもたちが「紙漉きワークショップ」の先生として参加してくれたほか、千葉商科大学と「つながりインターン」の大学生も運営に参加してくれました。

◎詳細報告：<https://www.apla.jp/archives/8579>



10月29日：

ぽこぽこバナナフォーラムを開催。池袋の会場には、関係者を含めて45名の参加、オンラインでの参加も約20名いました。会場は、全国各地のプロジェクト参加者による活用方法を紹介したポスタースペース、規格外バラゴンバナナを活用するアイデアシェアブース、規格外バラゴンバナナを使った商品販売のブースなど、活動の多様さが表れるようなスタイルで構成されました。発表は、二部構成とし、第一部は、ぽこぽこバナナプロジェクト、バラゴンバナナ、食品ロスについての情報提供の時間。第二部は、会場とオンラインでの活用方法共有の時間でした。

◎詳細報告：<https://www.apla.jp/archives/8650>



2024年1月6日～10日：

プロジェクトメンバー7名がフィリピン・ネグロスを訪ね。バラゴンバナナの生産現場を見学し、生産者と交流したほか、現地の圃場やパッキングセンターにおけるバラゴンバナナの廃棄の状況を確認してきました。

◎詳細報告：<https://www.apla.jp/archives/8722>



その他：

- バナナワークショップ開催：11件（東京DEW、Sakumag、鳥取つながる、エコルシェ横須賀など）
- プロジェクトの説明のための訪問：12件（佐渡、ワーカーズコープ深谷、幕張ブルワリーなど）
- メンバー間で活動をシェアするオンラインミーティングを毎月継続開催



◎ウェブサイト：
<https://poco2banana.info>



◎Instagram：
<https://www.instagram.com/poco2banana/>

調査研究事業

■フェアファイナンスガイド・ジャパン (FFGJ)

日本の大手金融機関の投資融資方針を社会性の視点から格付けするフェアファイナンスガイド・ジャパン (FFGJ) の一運営団体として、APLAは、主にSNSでの情報発信を担っています。

格付けスコアだけでなく、問題企業・事業をピックアップし、投融資方針と実態の差異に光を当てるための「ケース調査」も実施し、環境破壊や人権侵害等への資金循環を止めていくことを目指しています。問題や解決策をわかりやすく学べる講座開催の依頼を受け、講師を務める機会もありました。



ウェブサイト：<https://fairfinance.jp/>

Facebookページ：<https://www.facebook.com/fairfinanceguidejapan>

Instagram：https://www.instagram.com/fairfinanceguide_japan/

緊急支援事業

■パレスチナ・ガザ地区およびヨルダン川西岸地区への緊急救援

2023年10月7日以降のイスラエルによるガザ地区侵攻を受けて、パレスチナのオリーブオイルの2つの出荷団体、アルリーフ社（パレスチナ農業復興委員会PARCのフェアトレード事業会社）、およびパレスチナ農業開発センター（UAWC）では、ガザ地区の人びとに対する物資の緊急支援、中期的には爆撃によって破壊された農地や農業施設の復興支援を行う準備を進めています。

ガザ地区だけでなく、オリーブの産地であるヨルダン川西岸地区でも入植者やイスラエル軍による暴力行為がエスカレートしており、農地の破壊や強制立ち退きの事例も多数報告されています。そのため、UAWCでは西岸地区で避難生活を送る農民や遊牧民に対する住居やテント、住宅資材の提供も行います。PARC、UAWCから送られてきた緊急アピールを受け、APLAではパレスチナの人びとへの心からの連帯を込めて、両団体の活動を支援するため募金を呼びかけた結果、2024年3月末までに多くの皆さまからの連帯の気持ちと共に1,785,852円の募金が集まりました。APLA緊急災害支援準備金からも100万円を拠出し、総額2,785,852円を互惠のためのアジア民衆基金（APF）事務局を通じて、両団体に送金しました。

両団体はすでに様々な緊急支援活動を展開しており、その活動報告や現地の状況などを翻訳し、随時ウェブサイトやSNSで発信しています。



* 2023年度末時点での「APLA緊急災害支援準備金」残額：4,851,798円

会員数報告（2024年3月末時点）

| | 個人 | 団体 | 合計 |
|------|-----|----|-----|
| 正会員 | 76 | 32 | 108 |
| 賛助会員 | 67 | 11 | 78 |
| 合計 | 143 | 43 | 186 |

組織体制ほか

■組織体制

理事：市橋秀夫（共同代表）、疋田美津子（共同代表）、野川未央（事務局長）、赤松結希、大橋成子、鹿毛優子、廣瀬康代、堀芳枝、箕曲在弘（以上9名）

監事：黒岩竜太

評議員：秋山澄兄、近藤恵、近藤康男、吉澤真満子（以上4名）

顧問：弘田しずえ、前島宗甫

事務局員：野川未央（事務局長/専従）、福島智子（専従）、坂野亜希子（パートタイム）、納村ひとみ（パートタイム）、松村多悠子（パートタイム）

■総会・理事会・評議員会

総会：第16回総会（2023年6月3日）

理事会：第52回（2023年4月23日）、第53回（2023年9月23日）、第54回（2023年12月8日）、第55回（2024年2月17日）

評議員会：第36回（2023年9月23日）、第37回（2023年12月27日）、第38回（2024年2月17日）

■他団体とのネットワーク

◎フェアファイナンスガイド・ジャパン（FFGJ）

◎エシカルバナナ・キャンペーン実行委員会

◎NGO非戦ネット

◎辺野古・高江を守ろう！NGOネットワーク

特定非営利活動法人APLA www.apla.jp
東京都新宿区大久保2-4-15 サンライズ新宿3F
TEL：03-5273-8160／FAX：03-5273-8667
E-mail：info@apla.jp

